令和3年度 横浜国立大学経済学部

外国学校出身者選抜 試験問題

小論文

(90分)

- 1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2. 受験番号および氏名を、解答用紙の指定欄に必ず記入してください。(3ヶ所)
- 3. 解答用紙は2枚あります。解答は問題毎に指定された解答欄に記入してください。
- 4. 解答は、必ず解答用紙に横書きで記入してください。
- 5. 解答用紙は、持ち帰らないでください。
- 6. 問題冊子は、持ち帰ってください。

と 玉 う。 \mathcal{O} Þ 差 デ で大きな社会問題となっ لح Ŧ 不 平 等 は 目に見える最もわ 日 本 だ H で な て 11 カュ る。 りやす 欧 米の 米 国の 先 い格差問題 進国、 Occupy Wall Street (호 中 \sim 玉 0) な ど、 人々

れた満 要度 す 目 的 疑 9 7 う。 政策 لح 問 観 查 本 差 平等 調 て 視され は、 ば デ 中 足度」(self-reported satisfaction)であるから、デー が 充 的 查 優先度 この二項目の 誰 で、 満 て 足度を尋 観 t タ 足度 生活満足度が 旧 ることに留意す 察する前に、一〇の福祉領域のうち、 がふ 26 所得格差、 がちである。し として捉え直せば、 経済企画庁、現内閣府) が高いと考えて を一〇 七八年以 する さわ ね 入や財産の不平等が少な 動きを(特に一九七〇年代から二〇 L さ 事実」 0) どのように 11 降三年ごとに二〇〇八年まで実施 不平等、 らに生活全般の (福祉) 領域 地 る必要がある。 位 カュ いるかを見ておこう。 や収入が得られ しこの調査を「主観的」 な 階層化とい わ 変移 (低下) 極めて有用な調査であること ち \mathcal{O} を調べ、 六〇の 満足度を尋ねてい この 観 2 的 いこと、 ること、 た概念と深 細分化され 点 してきた ___ 七 を探るた 〇年代 玉 差 民 57 タとし ٤, 評価に が \mathcal{O} 0) どれ 二 つ た項目 後半 \bigcirc され る。 かを見 能 て 主 ` を 年 が 力 0 て カン 観 \mathcal{O} 代 重 ま が が お 5 自己申 に 9 玉 7 要と \mathcal{O} ず 客観 \mathcal{O} みよ 民 7 2 \equiv 生 7 0 2 告さ う。 る 性 \bigcirc げ 7 いる 玉 7 \bigcirc 年 5 努 客 重 民 年

域 を一 のの 収 領域 入と消 ら三 は 正 と生活保障」に分かれる。 費生活」、 「医療と保健」、「教育と文化」、「勤労生活」、 番目まで尋ね 「生活環境」、「安全と個人の て いる。 調査 は、 このうち重要と考え 保護」、 休 \neg 家族」、 暇 と余 暇 地 牛

が は 健」が 九 最も重要である」 想され 一位であり、「収入と消 は 年以降、 医 首位を 目され 実際 健」、 と評 る。 保ち続けて 「最も力を 収 した領域は 入と消 費生活」、 般に 入れ 費生活」、 重要度が高 11 ること、 ` 「勤労生活」が て欲 _ 〇二年の い 九九年まで三位 勤労生活 いと政策優先度 と選択 続く。 調 查 \mathcal{O} 医 では た が 領 \mathcal{O} 療 高 域 高 「家 と保 < V 医 政策 なる 族 لح

が VI 九 0 九 は 年 ` \neg 以 家 族」 下 と 11 7 う V 領 る 域 が 0) 政 0 \mathcal{O} 然 対 高 象 V とな 家 族 り 12 ___ < 0 政 VI 策 優

を

示

度

貧 は 幸 t 福 な び 整合 度 と 12 玉 報告され 7 \mathcal{O} あ る 々 0 る。 大 0 て 幸福 Inglehart and Klingemann (2000) & K る。 進 度 デ \mathcal{O} 玉 は タを ŧ 大 0 ち 人 0 ろん Þ 用 関 0) 1 心 幸福 低く T 事 玉 で 感は、 ` 際 は 比 ベ な ーシッ 蛇を行 < 所得水 な Veenhoven (1997) S 2 2 ク た · = た 準にほとん لح 近 VI 年 う ズ \mathcal{O} 点 諸 0 ど感応 高低に 研究 研 究 \mathcal{O} で 強 的 は 7 <

査 え P 目立 T は す 不 2 は 5 格 現れ 平等 26 11 べきであろう。 て 努力 る。 示 ったところに位置しては $\overline{}$ 差と لح な て は二三位、 が もっとも、 す 7 少 VI う問題は、 0 う点 26 る ば いため、 いこと」と、「公正と生活保障」 誰もが では、 (57)は二四位と、 ところがこれら二項目とも、重要度得点 はむしろ六○項目中、 充足度得点で見ると、 収 充足度が高 ふさわし 政策的ニー 入と消 いない い地位や収入が得られること 費生活」の いわけでない ズもさほど高 。二一世紀初頭の日本 近年多少上昇して これら二項目は決 四七位、 領 0) 域 が < 領域 0 、それ な 57 項 VI 0) 目 いるも 項目 (57) $\overline{}$ ほ は二八位 لح 26 ど重 V 人にとって \mathcal{O} この 高 う て高 現実 要な問 O収 項目 にとど 入 < つ を 能 そ は 力 れ な と考 平等 ほど が \mathcal{O} ま 中 注 0 12 目 あ

自 7 (self-reported 分 1 た (subjective て 不 るだろう 0 5 平等度その 事 \mathcal{O} ま 生活全般の評価を問題にする問な す は satisfaction) カン カュ well-being) 「生活 ` ŧ それとも不満ですか」と問うている。 同 のではなく、個々人が感知した「格差や 調 \mathcal{O} 査は 満 と「生活の満足度」を問題にし を尋ねており、 足度」 質問 表の中 (life で問っとして「あなた satisfaction) 回答者の のである。 に 「自己申 は これ 7 Ŀ V 告 0 不 る。 こされ は は - 平等を う 活 主 す た な 満 観 全 な 含 的 般 わ 足 で ち 度」 な た 格 厚

_ 7 に 九七 対 年の て、 「暮らしよ 下 一五・六%から、二〇〇二年の二六・六 る 不満」、 てお 11 り、 い 方 「どちらかとい この を持 向に 調査 つ 7 カコ 開 って 始以 る うと不満」と答え 来最 いると思う」 0 も低 合 < t な % 人 0 0 年 7 7 割 لح VI を る 合 獑 る は 次 さ 増 ク 5 九 加 \bigcirc

T 查 開始以来最も < な つ

あ 目 0 傷 か 方 7 が な 努 大 り 力 き カン に つ 年 たことが推 \mathcal{O} 26 to 日 本 がふさわ 人が 九〇 収 7 入や 測されよう。 年 る点 . の VI 財 わ バ VI 産 ゆ で ブ 地 \mathcal{O} 位 る あ ル 不 る。 や収 バ 期の 平等 ブ ル 入が得ら 調査 によ の数字を見 一で、は、 な つ て れ こと」、 受 _ ること」 不平等 ても、 け た経 57 0 済 0 強 的 部 さ 能 2 お 精 力 0 そ な 神 項

る と は 情 住 報 宅 勤 う 口 が • 続 答 0 者 年 年 た 調 5 数 点 0 查 収 れる 資料 属 を 企業 性 集 本 は を十 計 0) である。 規 カコ 量 • 模 な 分に活か 0 配 時系列 り詳細 偶 業種 者 P 世 に尋ねられ したことに 学 歴 帯 ク 口 全 ス 体) . 婚 姻と 性 て は 資 11 な 别 産 配 る 5 な • 偶 0 年 性 者 貯 11 齢 蓄 0) . 別 就業形 • 年齢 実際 な 借 ど 入 金 態 職 質 Ci 業 問 残 • 見 高 子 表 る 勤 を 務 読 関 0 け 数 す 形 ts Ci

らな 5 え、 であ ル な こう ろう。 政 プ 1 VI が 策を カュ 0) 5 満 た だ。 意 そう 足 П 識 度 答 ただ 者 した研究 L た あ 0 口 属 る 答 性 V なし を は に \sum_{i} 誘 \mathcal{O} 政 2 で 策 発 種 VI は す 0 = 7 研 る 0 究 不 可 ズ 情 能 は 満 を 報 を抱 性 計 を が 逆 量 利 あ す 用 口 る る 答 Þ な 者 \mathcal{O} が Š 5 \mathcal{O} 1 t 研 口 X 答 究 注 そ 意 内 ジ が n は ر ぞ 容 な れ n 影 け 5 カュ 0 n 響 から 5 を に ば 与 な な 要

観 に 的 単 お な な 満 け る る 足度 客観 認 識 的 をな \mathcal{O} な 事 問題とも 実と ぜ 問 題 し 実 7 لح は深く L \mathcal{O} 所得 な け カュ 格差だけで れ カュ ば わ なら ってく な は 11 る。 なく \mathcal{O} カコ 0 ۲ 上述 \mathcal{O} 問 ベ 題 た は ょ うな 社 会 _ 科 主

7 重 で 関 が Ł \mathcal{O} 象 自 造 あ 者 間 そ すな あ 科 々 学 る とこ と社 わ 測 本 ち .社 う ろ 会科 会科 す 科 るこ が が 社 は 学 つ 学 学 ľ 会 7 研 活 \mathcal{O} لح う \mathcal{O} 究 そ 観 最 は 察 感 現 は 動 Ł \mathcal{O} 主体 ち 大 で 実 背 を き 負 営 ろ \mathcal{O} 7 \mathcal{O} わ を、 う自己 な 例 λ 相 経 違 人 11 る え さ ば さら 間 済 点 が カン れ 」 は 学も 申 は 唯 を 7 に 対 \mathcal{O} 社 その 認 る 可 わ 参 そ 識 会 考 科 れ ひ な な る \mathcal{O} で とっ 主体 手 他 あ 学 自 す が 客 る 者 身 観 C る が カン \mathcal{O} لح VI ۲ 的 現 あ 認 る り 所 とな は な た 識 実 る 識 を が す が 0 0) Z デ 差 る 対 対 0 2 で て と で 象 識 あ 取 タ を す لح る な で 認 社 う を り 0 会 主 \$ つ 識 _ 扱 間 _ 体 う さ 7 す 0 \mathcal{O} \mathcal{O}

さ れ え 5 が が 7 安易 な 正 る まうと 不 な 合 を 0 う 煽 で Þ ると あ 口 す 性 11 があ うこ \mathcal{O} 誤 は 0 る。 て ともない \mathcal{O} 構造ゆえである。 るも 所得格差の拡大という研 わけではない \mathcal{O} であ れ 社会の 0 社会科学研 不平等 究者 0) 感 究と社 を助長 識 会運 (そ

学が 者は 題 (primatology 想像 猿 会 は 最 で に 力 あ こう 7 Ł 学 物 した る。 0 餌 社 理 ま 付 学 助 会科学に近 お でも、 うこ た な 観 け け 11 」をす 認 を て ど 察 借 識 لح そ 0) す 同 が るも 0 り \mathcal{O} 自 様 二重性 VI 二重構造と あ 然 ることに て とこ \mathcal{O} 科学 る \mathcal{O} 問 0 L__ 事実ら ろまで 題はた だ。 لح に \mathcal{O} よって、 程度は も程度 「され V) VI びたび指摘されている。 領域 う問 ずれ きも より強く 0 る を広げて 題 にせよ、 研究対象 差こそあれ ŧ 0 \mathcal{O} に縛られ _ ك を確定して なることは きたと 社会につ 0 (猿 存在すると ており、 相 0) 互 VI 集団)の行動様式が 作 われ かなけ 否め い 用 観察者(研究者 その <u>논</u> て る 「霊 語 な 中 ろうとする わ 重 ば カン れ 長 な 5 自 造 る 類 仮 が 学 然 \mathcal{O} 説 科 な

出 所 抜粋 猪 中央公論新社、 木武 L 徳 著 _ 部変更。 『経済学に _ 一二年の第六章の 何が できる かー文明社会の ___ 一三頁 5 制 __ __ 度的 兀 枠組 頁 ょ 4 1)

問 11 ます ----か。 著者 (一〇〇字) は 不平等化 Þ 所得格 差をどの ような 視点で捉えるべ きと主張 7

問二 五 \bigcirc \neg 字) 認 識 \mathcal{O} _ 重 造 12 0 VI 本 文 \mathcal{O} 内 容 て、 論 U な さ VI

問 \mathcal{O} ら 四点 11 に、 2 あ 查 調 な を 必ず言及すること。 查 た 対 実施 が 象 滞 者 す 在 る (個 た海 と た 外 B 5 0) 組 八 織 玉 どの や地 寸 0 域 字) 体) ような計 市 3 B 依 画を 町 頼 方 立 \mathcal{O} 法 てま 所 得 す 4 格 想 カン 差 定 に さ (1) 2 調 れ る 杳 7 \mathcal{O} T 果 ね